はしまますべくのたまへれど、二の御子○花園坊にさだまり給へば、又めでたくてなだらかにておはしますべし、

〔增鏡十二浦千鳥〕徳治二年にもなりぬ、○中略春宮○花園は正親町殿へ行啓なりて劒璽わたさる、八月廿六日踐祚なり、○中略持明院殿○伏見にはいつしかめでたき事どものみぞ聞ゆる、大覺寺殿○後宇多に は遊義門院の事にうちそへて御涙のひる世なくおぼさるべし、帥のみこ○後醍醐の御事をあづまへのたまひ○後宇多后妃子内親王つかはしたる、さうゐなしとて、九月十九日、立太子の節會ありて坊にゐ給ひぬ、いまほど世をとぢむる心ちしつる人々、すこしなぐさみぬべし、

〔增鏡十四春の別〕かくさまざまにおはしますを、○後醍醐諸皇子此たびいかで坊にとおぼしつれど、かねてだにもよほしおぼせられし事なれば、あづまより人まゐりて、本院○後伏見の一の宮○光嚴をさだめ申つ、いとけやけくきこしめせどいかゞはせんにて、七月廿四日に、皇太子の節會おこなはる、

○按ズルニ、兩統更立ハ、其由テ來ルコト古クシテ、村上天皇ノ皇子、冷泉圓融ノ兩流迭立ニ始マレリ、左ニ系圖ヲ掲ゲテ其淵源ヲ明ニス、

〔神皇正統記後一條〕冷泉圓融の兩流かはるゞ〳〵ゑらせ給ひしに、三條院かくれ給ひて後、御子の敦明の御子太子にゐ給ひしが、心とのがれて院號かうぶりて小一條院と申き、これより冷泉の御ながれはたえにけり、

〔皇胤紹運錄〕村上天皇

第六十三 冷泉院

第六十五 花山院